

クマザサ抽出液（ササヘルス）の多様な生物作用と代替医療における機能性

坂上 宏\*、渡邊 悟\*\*、横手よしこ\*\*\*、谷口純子\*\*\*\*、大泉高明\*\*\*\*

\* 明海大学歯学部 病態診断治療学講座薬理学分野

\*\* 東京聖栄大学健康栄養学部

\*\*\* 城西大学理学部

\*\*\*\* 大和生物研究所

要旨

クマザサ抽出液（ササヘルス（SE））は、クマザサの葉より樹脂分を除去後、含有するクロロフィル中の $Mg^{2+}$ を $Fe^{2+}$ に置換して安定化したのち、希水酸化ナトリウム溶液にて加熱加水分解した液を、中和して得た。SEは、黒緑色を呈する液剤でわずかな苦味と特有の芳香を有し、液性は低粘性の水性であり、 $pH8.1\sim 8.5$ 、比重 $1.01\sim 1.05$ を示した。SE100mLには、約5.82gの凍結乾燥粉末が含まれていて、クロロフィル $0.25\sim 0.26\%$ 、構成糖をキシロースやアラビノース、ガラクトース、グルコースなどとする多糖類が $1.25\%$ 、リグニンが $0.89\%$ 、リグニン分解物と思われる $p$ -クマル酸やフェルラ酸などが計150mg程度含まれていた。

SEの生物作用をまとめてみると、1) 細胞障害作用、2) 抗腐食作用、3) 抗菌作用、4) 抗ウイルス作用、5) 膜安定化作用、6) 抗炎症作用、7) ラジカル消去作用などが、明らかとなってきている。つまりSEは、抗HIV活性、抗インフルエンザウイルス活性、ビタミンCとの相乗的ラジカル消去作用、酸で沈殿しやすい性質など、リグニン様活性を示すことが明らかとなり、これらの実験結果は、SEの代替医療における機能性と可能性を示すものである。